

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4073400295		
法人名	有限会社 笑苑		
事業所名	グループホーム 笑苑 (別館)		
所在地	〒818-0122 福岡県太宰府市高雄1丁目3664番地255 Tel 092-918-0808		
自己評価作成日	令和06年07月10日	評価結果確定日	令和06年09月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5番27号 Tel 093-582-0294		
訪問調査日	令和06年08月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様一人ひとりの個性を大切に、ゆったりとした家庭的な雰囲気の中で、安心して楽しい思い出作りが出来る様にお手伝いをし、居心地の良い生活空間作りに取り組んでいます。毎日のラジオ体操やオリジナルの笑苑体操の他、花壇を整備して天気の良い日には積極的に散歩の声掛けをする、昼下がりのゆったりした時間には気分転換に軽い手足の体操を行うなどして利用者様の健康的な生活をサポートし、また、日常生活の中でも簡単な家事などのお手伝いをお願いすることで、残存能力の活用と生き甲斐の提供に努めています。怪我などで一度はベッド上での生活になられた方に関しても、担当班リーダーを中心に計画的に支援を進め、車椅子などを活用した寝たきりにしない介護を実践しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある	66	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
62	利用者は、日常的に戸外へ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念及び目指す事業所の姿が明文化され、全職員がその理念を共有している。カンファレンス等においての検討事項はこの理念に即した形で検討され、介護者本位ではなく、いかにして利用者様1人1人に自分らしく過ごして頂くかという視点で日々のケアに活かされている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の防犯パトロールやクリーンデイ、資源回収などに参加している他、年末の餅つき大会には感染対策を徹底の上、たくさんの地域の方々にご参加頂き、特に子どもたちからは好評を頂いている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	徘徊模擬訓練を行い、認知症の方々への理解、声掛け、支援の方法を地域住民の皆様に紹介する他、運営推進会議には地域の自治会長様などにもご参加頂き、苑の活動方針などについて深いご理解を頂いている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナ対応のため自粛、資料配布としてきた運営推進会議を再開。各事業所からの報告を行うと共に意見交換の場では貴重なご意見を頂いてきた。頂いたご意見は日常のケアに活かす他、資料の見やすさや報告内容についてのご意見も頂き、より伝わりやすい資料作成に活かしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には地域包括支援センターの職員の方にもご出席頂き、貴重なご意見を頂いている。また、意見交換の場などで、施設側のケア方針や職員の努力、悩みなども率直にお伝えしている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化委員会において身体拘束ゼロに向けた基本方針を固め、定期的に行う身体拘束に関する勉強会において全職員に周知。昨年度はスピーチロックの防止に特化した勉強会を行い、最終アンケートでは全職員が良い学び直しの機会とできていたことが分かった。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	介護現場において「仕方ない」と見過ごされがちなスピーチロックについても、本当にそれで良いのか、努力の余地は無いのかという観点で年間を通じて勉強会を行った。結果、全職員がスピーチロックについて正しい見解を持ち、これまで以上に相手の気持ちを考えた言葉かけに努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員が制度の仕組みを理解し、利用者様・ご家族様等からの相談に対しては施設長・ケアマネへ報告、関係機関へ相談できる様に体制を整えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約、改定時には利用者様、ご家族様、代理人に対し施設長及び職員が同席し、十分に納得頂ける様に努めている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用報告書をケアマネが毎月作成しケア内容を報告している他、写真付きの通信で利用者様の生活の姿を報告。ご家族様から好評を頂いている。ご家族様からは支払いや面会の際に直接ご意見を伺うなどして連絡を密にしている。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ケアカンファレンス、職員会議の前に全職員にケアや業務についての意見を提出してもらい、事前に議題プリントにまとめることで活発な意見交換の場を準備している。カンファ、職員会議で決まった事はその場で施設長の了解を得て、即実施につなげている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	今年度の介護福祉士試験において職員2名が合格。その際の実務者研修の費用は会社が負担した。毎月のシフト作成においては、パートタイマーを含む全職員の要望を踏まえ、可能な限り皆の要望通りに、そうでない場合には予め事情を説明し了解を得て作成している。		
13	9	○人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の募集時には資格や年齢よりも人柄、介護に関する考え方を優先し、ケアカンファレンスや職員会議においては、常勤、非常勤の別やキャリアに関わりなく活発な意見交換が出来る様に進行を心掛けている。一例として、未経験入社でキャリアも短いパートタイマー職員の提案を社長がすぐに受け入れ、脱衣所の手すりを設置されたりしている。		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	利用者様は人生の先輩であり、敬意の対象であるという高齢者介護の基本を徹底し、アットホームな雰囲気の中でも、それが失礼な言動や子ども扱いなどに繋がらない様に全職員が共通理解を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実 際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機 会の確保や、働きながらトレーニングしていくこ とを進めている	新型コロナ以降、外部研修の受講はなかなかできて いないのが現状であるが、その分、毎月の内部研修を実 践的で実りのある内容にできるよう、計画的に取り組 みを進めている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機 会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問 等の活動を通じて、サービスの質を向上させてい く取り組みをしている	GH協議会、社会福祉協議会、行政・福祉ネットワー ク等を通じて研修会に参加し、情報交換を進めること で利用者様に対する支援の向上の取り組みを図ってい るが、新型コロナ以降、ZOOMによる研修会が主にな り、参加の機会が少なくなっている現状はある。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っているこ と、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人 の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前のご本人様との面接を通して今までの生活状 況、経緯、ご要望などを十分に伺うと共に、それらの情 報をケアマネ、主任からすぐに全職員に分かりやすく 伝えることでケアの統一を図り、利用者様が安心して 生活できる環境、関係づくりに活かしている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困ってい ること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関 係づくりに努めている	入居前の面接ではご家族様のご意見や要望も十分に 伺い、施設でのケアに反映させると共に、ご家族様と の連絡事項は確実に職員間で申し送りを行い、伝達ミ スによる話の食い違いなどが発生しない様に心掛けて いる。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「そ の時」まず必要としている支援を見極め、他の サービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様、ご家族様との初期の話し合いの時点でまず 必要な支援は何かを見極め、他の支援機関との連携 を考慮した対応に努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におか ず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の残存能力に応じて、食器拭きや廊下のモッ ブ掛け、洗濯物、花壇の草むしりや野菜の収穫などを 職員と一緒にやっているが、決して無理強いせず、 お願いする際の言葉遣いにも細心の注意を払ってい る。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におか ず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人 を支えていく関係を築いている	ご本人様とご家族様との関係性にも留意しながら、居 室の整頓や衣替えに参加して頂いたり、誕生会に出席 して頂いたりして、共にケアを進める関係性作りに努め ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	消毒やマスク等の感染対策を徹底した上で面会を再開し、ご家族様が直接ご本人様と接する機会を大切にしている。また、ご本人様の要望に応じて外出レクの行先を決めるなどしている。一例として馴染みのコンビニで買い物がしたい、など。		
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	各自の体調等も考慮しながら、できるだけ日中はリビングで他の利用者様と接して頂ける様、声掛けを行っている。軽いレクリエーションなども頻繁に行い、利用者様同士の交流の場としている他、発語や聴力に問題を抱える方に関しては、職員が間に入る事で円滑なコミュニケーションがとれるようにしている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者様がお亡くなりになった時には、代表者が通夜、葬儀に参加させて頂いている他、グリーフケアの一環としてこれまでの生活の思い出の写真や職員からの寄せ書きなどをお渡しし、ご縁が切れない関係性の構築に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の生活の中で、職員1人1人が言語的・非言語的コミュニケーションを活用し、利用者様のニーズの把握に努めている。その内容はカンファレンス等で共有され、実現に向けて検討・実施されている。		
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様の生活歴・生活環境など入所時に資料にまとめられており、常勤職員を中心にその把握に努め、カンファレンス等で全体共有している。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	カンファレンスでの情報共有の他、日々の個人記録においても、日々変化する利用者様の状態の把握に努め、大きな変化があればより詳細に記録するなどメリハリのある記録を心掛けている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現場の職員の気付きや本人様の言動により新たな課題が見つかった場合は当月のカンファレンスにてすぐ解決に向けての検討を行い、主治医等とも連携しながら毎月のモニタリング、半年ごとの介護計画の見直しに反映させている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	タブレットによる記録の一括化を取り入れ、より効率的に情報共有が進められる様にしているが、年配の職員も多く、現在入力スピードの向上に努めている。記録内容については、より価値のある情報をより詳細に、メリハリのある記録を心がけている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様、ご家族様との関わりの中で、その時々状況に応じた臨機応変な支援が速やかに行えるように努めている。一例として、遠方のご家族様からの依頼により、本人様の靴の購入に帯同するなど。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナの影響や利用者様の体力面により地域行事への参加が難しくなっている現状はあるが、8月には地域の夏祭りに参加させて頂き、大いに喜ばれた。地域ボランティアの活用などは、新型コロナの影響を鑑み、餅つき大会のお手伝いなど限定的に行っている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様、ご家族様の意向を尊重し、主治医による訪問診療、または受診の支援をしている。その他、必要に応じて別の病院、専門医で適切な検査、治療が受けられる様、主治医と相談しながら支援している。		
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設長が看護師である他、職員にも看護師の資格を持つ者が複数おり、介護現場における医療面での気付きがすぐに情報共有され、主治医への報告、相談につながる体制作りができている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者様の入院時や救急搬送時に速やかに当該医療機関と情報共有ができるよう必要な書類をまとめ、準備をしている。また、主治医を通して、緊急時の入院対応可能な病院などとの連携を密にしている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者様の状態に合わせて、主治医と連携しながら早い段階で本人様やご家族と話し合いを行い、本人様らしい最期を迎えて頂ける様、支援体制を整えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員1人1人が緊急時マニュアルを十分に理解し、落ち着いて対応できる様心構えを持って業務に臨んでいる。また、急変の可能性がある利用者様については特に事前に連絡先や救急搬送の有無などを再確認し、職員全体で情報を共有している。		
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力の元、年2回の火災避難訓練を実施。内1回は日勤帯、1回は夜勤帯を想定して行い、どのような状況でも確実な対応ができるように心構えをしている。風水害に対してはハザードマップや対応マニュアルを熟読の上、物品の場所の確認など行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の意思を尊重した呼び方(さん付けを基本とし、姓名どちらで呼ぶか、など)や敬意の伝わる言葉遣いなど徹底できるよう、内部研修の機会などを通じて常に内省、向上を続けている。		
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分らしく過ごして頂けるよう、利用者様の声を傾聴し、自己表示・自己決定を大切にすると共に、職員の都合による押しつけや無理強いが無いように職員会議等で意識を共有している。意思表示が難しい利用者様についても、表情や顔きなどで意思を理解できるよう質問を工夫している。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	施設の基本的なスケジュールに囚われず、利用者様の体調等に配慮しながらも、可能な限りそれぞれのペースで過ごして頂ける様に心掛けている。体調などの心配がある場合でも、上からの言葉にならない様、お体の事を考えたアドバイスという形でやんわりと伝えるようにしている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に訪問理美容師によるヘアカットを実施し、朝は必ず朝食前に自身又は職員が髪を整えている。また、着替えの際の服装などではできるだけ自身で選んで頂き、意思表示が難しい利用者様については、職員が組み合わせや気温などを考えて適切な衣服を選んでいく。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理職員と連携しながら、旬の食材などを活かし、利用者様の好みに応じた食事の提供に努めている。また、食事の前後にはテーブル拭きや食器拭きなど、各自の残存能力に合わせたお手伝いをお願いしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の際は無理強いにならない様に心掛けながらも出来るだけバランスよく召し上がって頂けるような言葉がけを続けている。水分に関しては、お茶だけでなく1日1回は他の飲み物も提供し楽しみにして頂く他、軽い体操をする、冷めたらする入れ直すなどして摂取量の確保に努めている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、全利用者様が職員の声掛けや介助によって口腔ケアを実施。職員は利用者様の残存能力に応じた支援を行っている。歯ブラシは定期的に新しい物を購入。その他、歯間ブラシやスポンジブラシなど適切な道具を購入・使用している他、内部研修等で口腔ケアの正しい介助方法を身につけている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様一人ひとりの排泄パターンに合わせて早めに声掛けを行い、可能な限り汚染を防いでいると共に、声掛け自体もあくまで本人様の自立支援として「気付いて頂く」ための声掛けを行っている。安易にオムツに頼らず、可能な限りリハビリパンツ、トイレでの排泄を進めている。		
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	状況に応じて便秘薬を使用しながらも、それに頼り過ぎず、腹部マッサージや水分摂取の工夫の他、散歩や体操で身体、特に下肢を動かして頂くことでスムーズな排便を促している。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	概ね週3回の入浴日を設定しているが、利用者様の体調やご希望等により、柔軟に対応できる環境を整えている。入浴時はできるだけ浴槽に浸かって頂き、下肢マッサージや屈伸運動なども行っている。他、入浴の無い日には積極的に足浴を実施し、清潔の保持に努めている。		
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は無理のない程度に離床を勧め、散歩等で日光を浴びて頂くことで体内時計を調整、夜間の睡眠を支援している。飲み物も基本はノンカフェインの麦茶を使用し、特に午後以降はカフェインの摂取を控える。何より、利用者様が落ち着いてゆったり過ごせる様、全職員による雰囲気作りに努めている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の受け取り時には必ず変更の有無を確認。変更があれば連絡簿などにより全職員に通知の上、チェック表を随時最新の状況に作り変えている。特に内服薬を準備する夜勤職員においては薬文献を熟読し、それぞれの薬の目的と利用者様の健康状態を関連付けて理解する様努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様それぞれの個性や残存能力を活かしてお手伝いをお願いし、役割作りに取り組んでいる他、毎月の定期レクリエーションや空き時間を用いたミニレクリエーションを活発に行い、気分転換や交流の機会としている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナの影響もあり、人が多い所には行き辛い状況ではあるが、利用者様の要望に応じて、できるだけ外出の機会を設定している。体調、体力面で遠出が難しい利用者様でも、近場への外出や苑庭散歩の機会を利用し、気分転換を図っている。		
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人様の希望やご家族様、経済状況などに応じて、金銭の所持や使用の支援を行っている。現在は1名の利用者様が自身で財布を管理。本人様希望で定期的に近くのコンビニで買い物をされている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	数名の利用者様について、ご家族様より携帯電話を預かり、事務所で保管しているが、あまりこちらからの希望はなく、ご家族様よりかかってきた電話の取り次ぎが主になっている。また、お手紙やプレゼントなどが届いた際にはすぐに本人様にお渡しし、その姿を写真に撮っている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間の掃除は毎日行い、清潔、整頓に努めている。また、リビングに季節の花を飾る他、利用者様の活動も取り入れた季節の壁掲示物作りなどを行い、室内でも季節感を感じられるような工夫を行っている。		
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様の人間関係を考慮したリビングの座席配置を行ったり、利用者様同士の挨拶や会話を促進・補助できるような職員の関わり方をしたりして、居心地の良い空間づくりに努めている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族様と相談、ご協力を頂き、できる限り入居前に使用されていた馴染みのある生活用品を準備して頂く事で、居心地よい住環境の整備に努めている。ご家族様の写真やプレゼントなども異食の心配などがない限りは希望に応じて居室に飾るなどの対応をしている。		
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下以外にも必要に応じて手すりを設置。また、床もバリアフリーとし、利用者様の身体機能に応じて安全に過ごして頂けるような環境を作っている。また、各居室やトイレなど分かりやすい表示を心掛け、利用者様が混乱せず過ごせる様に工夫している。		